

様式第2号（第9条関係）

会 議 録

会議の名称	令和7年度第3回ふじみ野市社会教育委員会議常設専門委員会			
開催日時	令和7年11月12日（水）開会時刻 午前9時30分 閉会時刻 正午			
開催場所	ふじみ野市役所第3庁舎2階 C201・202会議室			
出席した者の氏名 （委員9人中 6人出席）	役職名	氏名	役職名	氏名
	委員(委員長)	石川 健一	事務局(課長)	木村 裕之
	委員(副委員長)	山口 ゆかり	事務局(副主幹 兼地域学び係主査)	松原 秀洋
	委員	中窪 由香理	事務局(社会教育係長)	笠掛 裕子
	委員	齊藤 宏	事務局(地域学び係長)	松島 弘泰
	委員	長谷川 節子	事務局(文化財保護係長)	岡崎 裕子
	委員	小澤 真樹	事務局(社会教育係主任)	近藤 彩香
会議の議題	(1) 審議事項 ① 上福岡西公民館閉館に伴う事業のあり方について ② 利用者懇談会について ③ その他 ・ふじみ野市社会教育委員会議への報告について（素案） (2) 事業見学及び事例発表について (3) その他			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	2人			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	教育部 社会教育課			
議事の確定	確定年月日	令和7年11月25日		
	記名押印	役職名 委員長 石川 健一 ㊟		

別紙

発言者	発言の要旨
事務局 (笠掛係長)	開会の挨拶 ・出席者 専門委員 6名 (欠席者 2名) で会議成立の報告 ・傍聴者 2名の報告
石川委員長	1 開会 開会にあたって挨拶
事務局 (笠掛係長)	・配付資料の確認 ・次第の順番の変更について説明 (議事 (1)、事業見学及び事例発表、議事 (2)、(3) の順に進行)
石川委員長	議事進行 2 議事 (1) 上福岡西公民館閉館に伴う事業のあり方について
事務局 (松島係長)	資料 1 に基づき、前回会議でも説明した上福岡西公民館閉館に伴う事業のあり方について、現行の事業の位置づけ、公民館事業における課題の定義、見直し事業、今後の事業検討案など具体的な事業の展開等の考え方について改めて説明。
事務局 (笠掛係長)	前回会議でご要望があった社会教育事業の一覧を作成させていただいた。一覧に載せきれないものもあるが、その中でも社会教育課内で事業の対象や趣旨が近いものを並べて掲載している。その事業同士の統廃合を検討するというわけではなく、現時点での実施状況として参考に見ていただければと思う。また、「社会教育のまとめ」は社会教育事業の実施状況が集約された資料のためご活用いただきたい。
石川委員長	資料 1 の「0. はじめに」では、公民館事業の再編について触れられている。この部分でご意見等あれば伺いたい。
齊藤委員	「要求課題」に基づく事業については、類似や重複が生じやすいとの記載があるが、要求課題が多く挙げられているのか。
事務局 (松島係長)	直接利用者から希望のお声をいただくこともあれば、これまで上福岡公民館、大井中央公民館で行ってきた事業を上福岡西公民館で実施してきたため、そういった意味でも重複が生じている部分がある。
齊藤委員	個人の要望に見えて、多くの人の役に立つ内容という可能性も踏まえた上での検討が必要なのではないかと。また、「限られた人員」という表記があるが、これからは社会教育事業全体として、市民の皆さんを巻き込み一緒にやっていくという考え方が必要になってくるのではないかと。
事務局	「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」といった市民とともに作りあげ

(松島係長)	ていく形を将来的に目指していく形として認識している。
齊藤委員	すぐにできるものではないので、ひとつふたつ拾い上げ、広げていけたらおもしろいと思う。
石川委員長	この「限られた人員」という表記については、これまではそうであったが、これからは広く展開していくという理解のもと修正は不要として良いか。
各委員	異議なし
石川委員長	その他の意見について伺いたい。
小澤委員	先日ステラ・ウェストに伺った際、チラシがすごくたくさん置いてあった。多く置いてあるのは魅力的ではあるが、必要なものが必要とする人の手に渡ると良いと思った。
長谷川委員	高齢者はホームページから調べたり、施設が近くにあればいいが、そうではないと出向いたりするのは難しく、どうやって情報を仕入れているだろうかと考えると、地域の回覧板や友人との口コミが大きいと感じている。回覧板で回るものは少なくなってきたいて、事業によって周知の仕方に差がある。もっと活用できるのではないか。
中窪委員	マンションの町会の掲示板を思い出すと、行政からのお知らせばかりで、公民館事業のようなものはなかった印象。入手する術がなく、いっそう施設に出向くチャンスがなくなっているように感じている。
長谷川委員	学校などの近くにある掲示板があまり活用されていないのではないか。
小澤委員	掲示板にも種類があるが、季節によってはイベントが多く掲示できないケースもある。回覧は町会に入っていないと回らず、情報の提供の難しさを感じている。今後は事業の再編をしながら、その情報をどのように出していくのかも検討の必要があるのではないか。
事務局 (木村課長)	行政からの情報としては、ホームページと全戸配布の市報が基本の2本柱である。公民館事業についてはこれからも掲載していく。 また、特定の分野の情報が欲しい人に届くようFメールというやり方もある。ほしい人にほしい情報が届くように改善していく必要があると認識している。
山口副委員長	上福岡西公民館でこれだけ多くの事業を抱え、職員は大変忙しそうな雰囲気、 「こなしている感」があった。しかし職員自身も一緒に楽しむ姿勢であってほしい。そこで参加者とコミュニケーションを密に取り、つながりを生み出し、生かしてほしいと期待している。職員側として、参加者からの人気や手応えのあった事業はあ

事務局 (松島係長)	<p>るか。</p> <p>この後見学する「にほんご教室」は週に2回開催し、他の事業に比べ実施回数も多く、行政の中でも類似事業もなく需要がある。ボランティアもコンスタントに10名前後参加しており、登録者では30名ほど。日本語を習いにくる外国人もコンスタントに10名程度参加している。他には昭和100年大学も150名前後の定員が毎回埋まる人気事業で、需要があると考えている。</p>
石川委員長	<p>今後必要課題へ焦点を当てていく中で、事業展開については今出てきた意見を踏まえた活動にしていきたい。階層別課題についてはこれまでの継続という考え方で良いと思う。</p> <p>続いて、「課題の定義」について。必要課題はさらに「地域課題」と「生活課題」に分けられているが、その点についてご意見いただきたい。地域と生活と大きく分け、その中で細部に課題が分けられるという理解であれば、網羅されるのではないかと。</p>
各委員	<p>異議なし</p>
石川委員長	<p>続いて階層別課題について。青少年、成人、高齢者の3つの段階に分けられているが、ご意見いただきたい。</p>
小澤委員	<p>青少年教育の対象が「0歳」からではなく「未就学児」という表記であるのは意図があるのか？</p>
齊藤委員	<p>家庭教育・学校教育・社会教育と言われていたが、社会教育と学校教育は循環させるべきだという議論がされてきた。家庭教育は家庭教育として、核とするのは小さな子どもたちであると思っている。そうすると、社会教育としては「未就学児」といった表現が適当なのではないかと感じた。</p>
事務局 (松原副主幹)	<p>齊藤委員のお話も一つとしてある。また、今回の資料で課題の案としてはこれまでの公民館事業をベースに考えており、具体的な事業としては対象年齢を2歳児のみとする「はとぼっぼ教室」であるため、「0歳から」ではなく「未就学児から」という表記にしている。2歳児のみを対象としているのは、1歳年齢が違うだけで成長度合いが全く異なり、プログラム内容が変わってきてしまうためだが、今後はその対象年齢も含めて検討していきたい。</p>
長谷川委員	<p>「公民館事業における課題」とあるが、「公民館事業」という表現は問題ないのか。</p>
事務局 (笠掛係長)	<p>これまで社会教育課の社会教育係で実施している社会教育事業とこれまでの公民館事業は性質が異なり、区別をする便宜上、あえて「公民館事業」という表現をしている。今後の説明や資料等にもそのように表現させていただく。</p>

石川委員長	<p>続いて、事業検討案についてご意見いただきたい。</p>
齊藤委員	<p>必要課題の中にある「その他」の表現について。複数の部署で同じような内容の事業があるものが「その他」にあてられているのだと思う。そういったものは一つに絞れば良いと単純に考えるものもあれば、それぞれのテーマに意味があるものもあると思う。表現を変えて3つ目の分類として良いのではないか。</p>
事務局 (松島係長)	<p>「その他」として挙げている「地域コミュニティ事業」については、各町会等を中心に、会館で地域の課題をテーマに社会教育活動を行うという際に支援するという事業である。実際には各町会等から出された事業計画表をもとに、社会教育活動であると判断した場合に講師謝礼を支払っており、町会等と一緒に何か事業を行っているというわけではないため、「生活課題解決事業」「地域課題解決事業」のいずれにも属さず「その他」とし、今後の事業の見直しについては自治組織を所管する協働推進課との協議が必要であると考えている。</p> <p>緑の講座についても、どの階層を対象にした事業というわけではないため「その他」に分類しているが、今後は環境課が実施する「環境学習講座」とテーマや内容が似通っているため、展開については協議が必要であると考えている。</p>
石川委員長	<p>他のセクションで、目的が異なるが内容の似た事業を行っている場合もある。資料2では、これから事業について精査するために表にまとめていただいている。今後関連事業が併記され、将来的に整理していくという理解しており、他課との連携や調整がこれをベースに進んでいくという理解で良いか。</p>
事務局 (木村課長)	<p>委員長の認識のとおり、事業の精査については行政として不断に継続していくべきことであると認識している。</p>
齊藤委員	<p>社会教育として、地域学校協働活動にかなり焦点が当たっており、そういった中で行われている事業は、生活課題解決事業、地域課題解決事業、その他のどこに分類されるのか。</p>
事務局 (松島係長)	<p>地域学校協働活動推進事業自体は公民館事業ではなく社会教育課としての事業であり、それ自体が分類されるのではなく、その活動の中で課題が見いだされ、事業を実施するとなった場合に、その事業が生活課題解決事業、地域課題解決事業のいずれかに分類されるというように考えている。</p>
齊藤委員	<p>「公民館でやるべきこと」ということにこだわっているように感じられる。「施設中心」から「課題中心」、更にはその課題を「生活課題」「地域課題」と分類するのも良いと思うが、更にもう一つ二つ他課との連携事業など別のカテゴリがあっても良いのではないかと感じた。</p>
山口副委員長	<p>「地域コミュニティ事業」は非常に重要であると考えている。もっと個人に近いところからの発信・教育が必要。これとは別ではあるが、不登校の問題も無視はで</p>

	<p>きない。不登校の子ども、引きこもりがちな大人、障がいを持っている方など、深い問題ではあるが、社会教育の面から何かできることはないか考え、幅広く何かできないか考え、事業へ組み込んでいけたらと思う。</p>
石川委員長	<p>不登校児童については本来学校教育が受け皿であるが、学校教育と社会教育が連携して何かできないかというのが今の視点であると思う。そういった公民館事業と隣り合わせの社会教育事業がたくさん考えられる。その事業展開は今後整理していかなければならないことである。</p>
齊藤委員	<p>「その他」を「地域コミュニティ事業課題解決事業」などと表現することで位置付けられるのではないか。</p>
事務局 (木村課長)	<p>強いご意見として受け止めさせていただき、検討させていただく。</p>
事務局 (笠掛係長)	<p>進行 3 事業見学及び事例発表について</p> <p>～事業見学【にほんご教室（ステラ・イースト内）】～</p> <p>～事例発表【人形劇サークル／あったか・おひさま（山口副委員長）】～</p>
事務局 (笠掛係長)	<p>事業見学、事例発表を受けての感想やご意見をいただきたい。</p>
石川委員長	<p>にほんご教室ではマンツーマンでボランティアの方が対応していて感銘を受けた。人形劇の活動は子どもたちの感性を豊かに育てていると感じた。</p>
中窪委員	<p>にほんご教室は同じ母国語の人に集団で教えるのかとっていて、マンツーマンであることに驚いた。外国籍の方ももちろんだが、日本人でも生活に困っている人が相談したり教えてもらえたりする場が必要なのではないか。人形劇はやっている人たちが楽しそうで良いと思った。</p>
齊藤委員	<p>にほんご教室は大変地道な活動であると感じた。先生側であるボランティアの方と生徒側である参加者とのコミュニケーションはとても大事で、人間性も求められるし、長く続くには双方楽しめることが大切であると感じた。しかし、活動している人達だけでクローズしてしまっているようにも受け取れ、もったいなく感じた。</p> <p>人形劇は活動している人たちが楽しんでいるのが非常に印象的だった。そのような活動が広まってほしいと思う。</p>
長谷川委員	<p>にほんご教室も人形劇も、人が集まるところに温かさが生まれることを再確認し</p>

	<p>た。今はネット社会の利便性はあるが、温かみはないと感じる。市の事業は成果を求められるかもしれないが、教育は先の長いものであり、過程を大切にしてほしい。居場所づくりなど大事な根っこの部分を提案していきたい。</p>
小澤委員	<p>小学校にも外国籍児童の転入が多く、先生もコミュニケーションのためにポケットワークなどの媒体を使用している。保護者も日本語が分からない場合に、母国語が分かる人を見つけてほしいと学校から依頼を受けることもあるがなかなか難しい。にほんご教室に来ている人はある程度日本語力がある人だと思った。そこに達しない人を救い上げることも必要だと感じた。</p> <p>人形劇は、活動を通して人と出会い、つながりが生まれているのがとても良いと思った。</p>
山口副委員長	<p>実際に事業を見ること、体験することが大切だと感じた。ボランティアの方の「やりたい」という気持ちや「できる」という感覚を大切に、ネットワークを広げていけたら心強いなと感じた。人形劇の活動は、公演を見た方が好きになってサークルに入ってくれることもあり、つながりが生まれていると実感した。</p>
事務局 (笠掛係長)	<p>進行 議事に戻る</p>
石川委員長	<p>社会教育は幅が広く、事業の参加者がゆくゆくは指導者や運営者になるなど、そういった循環が社会教育の本来の姿であると感じた。</p> <p>引き続き、資料1の4. 見直し事業についてご意見いただきたい。</p>
小澤委員	<p>資料の中で要求課題解決事業の例に挙げられている事業は、今後廃止など見直しの対象になっているということか。</p>
事務局 (松島係長)	<p>ここでは、要求課題解決事業に当てはまるであろう事業を挙げている。例えばヨガ教室では、ただ単にヨガを体験することだけが目的で終わってしまうと、単純に個人の趣味に留まってしまう。そこから一步深めて、一緒に参加した人とサークルを結成したり、教える立場になったりすることで仲間づくりや生きがいがづくりにつながる。そういった意味で趣旨や目的を見直す必要があるのではないか。</p>
石川委員長	<p>目的を達成する手段としては内容の似たものは多々あるが、その上で事業を実施する大きな目的は、仲間づくりや生きがいがづくりであるという認識である。このことについて事務局としてはどう考えているか。</p>
事務局 (木村課長)	<p>事例発表でも話があったが、社会教育活動が仲間づくりや次世代の育成につながっているのだと感じた。社会教育の本質と異なる事業については、見直しは一定程度必要であると考えているが、廃止が前提的なものではない。今後の取り扱いについては社会教育の面から見た潜在的なニーズを正確に把握していく必要がある。</p>

山口副委員長	<p>例えばヨガ教室であれば、健康に関心がある方が参加したり、自分自身も子どもが生まれたことをきっかけに公民館の事業に参加するようになったり、公民館がとても近く感じるようになった。そうやって趣味などをきっかけに公民館に足を運び、職員と交流する中で、事業に関わるようになることもある。事業参加者をよく見て、次のステップアップに繋げていくことで人材を育てていくことができるのではないか。</p>
石川委員長	<p>自分自身もバドミントン教室をやって、サークルを結成した経験がある。公民館事業というのは仲間づくりという側面から見ると必要性が高いと感じた。</p>
小澤委員	<p>事業を廃止するというのではなく、やり方を見直すということか。資料では「単純な廃止ではなく」とあるが、「優先度が相対的に低い」「存在意義が薄い」とされており、今後の実施自体を検討するように読み取れてしまう。事業のやり方や開催までの持っていく方を見直すという認識で良いのか。</p>
石川委員長	<p>この専門委員会でそういったことにも意見を出していき、事務局とともに計画を立てていくと考えているが、そういった認識で良いか。</p>
事務局 (木村課長)	<p>その通りで、この専門委員会はそういった意見をいただく場である。</p>
石川委員長	<p>資料1 5. 将来の事業案(まとめ)について、階層別から課題別に事業を再編するという案について、ご意見いただきたい。</p>
齊藤委員	<p>階層別での「高齢者教育事業」は、課題別でもそのまま「高齢者教育事業」となっている。「文化関連事業」「地域課題解決事業」「生活課題解決事業」と並べて、必要課題の分類分けにあった「その他」を別の表現に変えて4つ目の分類とすれば良いのではないか。</p> <p>また事業の順番についても、現在「地域課題」が最も重視されていることを踏まえ、「地域課題解決事業」を一番上に表記し、「生活課題解決事業」「文化関連事業」と続け、最後に4つ目の分類をもってくるのが適当ではないか。高齢者は高齢者教育だけを受ければ良いということではないと思う。</p>
長谷川委員	<p>最近、家庭の教育力が弱くなってきているのが大きな課題であると感じている。家庭教育が関わる事業を組み込めないか。</p>
小澤委員	<p>資料を振り返ると、必要課題を生活課題、地域課題、その他に分類するという案と、現状の階層別課題として継続しその中で再編するという二つの案があるが、最終的なまとめを見ると、階層別事業を課題別事業へ再編するという形になっていて、その他の分類はなくなっている。また、要求課題の中には不登校の問題など、新しく対応すべき課題が含まれているのではないか。それを社会教育の場としてやっていくのか、検討の必要はあると思う。</p>

石川委員長	現状を踏まえて課題を整理し、将来的な課題も見込まれていると思うが、現時点で見えないものをどうしていくのか、コメントが入っていると良いのではないか。高齢者教育事業については、事業によって地域課題や生活課題になると思う。委員の意見を踏まえ、事務局としての意見を伺いたい。
事務局 (木村課長)	将来的な課題が要求課題に含まれるのではないかというご意見があったが、この資料では現在の公民館事業をベースにしているため、要求課題にあたる事業は見直し対象となっているが、今後の出てくる要求課題の中に地域課題や生活課題に定義されるものもあると考えられる。まとめの図については「高齢者教育事業」や「その他」の分類の扱いも精査し、注釈等も入れながら改善を図っていきたい。
長谷川委員	この資料1は、専門委員会から市へ提案するものなのか。
石川委員長	これは事務局からの提案資料であり、この内容について専門委員会として承認し、本会議へ報告する。言葉で書ききれないことが多々あると思うが、そういった考えも含めて、先ほど課長からもあったように検討していくということである。
長谷川委員	社会教育委員の意見として出すものであれば、階層別課題の並び順は教育を上にするのが良いのではないか。
事務局 (木村課長)	現行の事業の順番としては、市の事業別予算の順に表記しているため、順番の入れ替えは対応したいと思う。
中窪委員	事業検討案のように、4つの分類に分けなければならないのか。課題別の並列ではなく、円で重なりがあるような見え方の方が良いのではないか
事務局 (木村課長)	表し方についても、工夫して検討したい。
石川委員長	いただいた意見をもとに事務局に修正していただく。以上で内容については同意いただけるか。
各委員	異議なし
石川委員長	議事進行 2 議事(2)利用者懇談会について
事務局 (木村課長)	資料3に基づき、これまでの公民館運営審議会の委員構成と西公民館利用者懇談会と今後の方策について説明。本内容については継続審議とし、早急に答えをだすものではないが、案としては、社会教育関係団体からの意見反映のため、これまでの利用者懇談会構成団体のうちのいくつかの団体代表者からなる組織を設置し、そ

	<p>の組織よりこの常設専門委員会へご意見を伺う仕組みを検討していく。</p>
石川委員長	<p>この内容については、次回会議においても改めて時間をとって説明していただき、審議を続けていきたい。</p>
	<p>議事進行</p> <p>2 議事 (3) その他 ふじみ野市社会教育委員会議への報告について (素案)</p>
事務局 (笠掛係長)	<p>資料4に基づき、今年度の常設専門委員会での審議結果等について、本会議の議長へ行う報告について説明。</p>
石川委員長	<p>内容については、事務局と精査させていただき、報告させていただく形で良いか。</p>
各委員	<p>異議なし</p>
事務局 (笠掛係長)	<p>進行</p> <p>4 その他 次回会議について</p>
山口副委員長	<p>5 閉会 閉会の挨拶</p>